

千曲市備蓄計画

令和7年9月 改定
千曲市
(危機管理防災課)

基本方針

大規模な災害が発生した場合、被災直後の市民の生活を確保するうえで食料の備蓄・供給は重要であり、市民は、一般流通が十分機能しないと考えられる発災直後から最低でも 3 日分、可能な限り 1 週間分程度は自ら備蓄するよう周知啓発し、「自らの命は自らが守る」という自助による取り組みを支援促進する。

市では、物資調達・輸送調整等支援システムを活用した、国・県をはじめ応援自治体からの物資調達や、物資応援協定に基づいて食料品、生活必需品等の確保に努めるとともに、食料の持ち出しができなかった場合や生活必需品の不足等を想定して、必要な品目や数量を定め、計画期間中に計画的に備蓄を進める。

(1) 計画期間

本計画の計画期間は令和 7 年度から令和 9 年度までとし、必要に応じて適宜修正等する。

(2) 避難者総数（算出基礎数値）の設定

千曲市地域防災計画（令和 7 年 3 月改定版）では、市内に最も大きな影響を及ぼすと予想される「糸魚川－静岡構造線断層帯（全体）」を震源とする地震が発生した場合の被災 1 日後の避難者数 6,300 人（第 3 次長野県地震被害想定調査報告書（平成 27 年 3 月）による）を備蓄目標の算出基礎数値として設定しているが、本計画では、長野県地震防災対策強化アクションプランと併せ、「糸魚川－静岡構造線断層帯（全体）」を震源とする地震が発生した場合の最大想定避難者数 16,740 人の内、避難所への避難者数 8,370 人（第 3 次長野県地震被害想定調査報告書（平成 27 年 3 月）による）を基準とする。ただし、現在の人口規模（R7.4 現在）により、避難者総数（算出基礎数値）を設定する（7,740 人）。

なお、災害時に市が優先して開設する避難所に指定している 15 施設（13 小中学校（つばさ体育館含む）、ことぶきアリーナ千曲、ふれあい福祉センター）の収容可能人数は 6,195 人、基幹公民館等（6 施設）の収容可能人数が 1,570 人、計 7,765 人（参考：令和元年東日本台風時の避難者数は 5,173 人）

○備蓄目標の算出基礎数値とする避難者数

	人 口	最大想定避難者数（被災 2 日後）		
		総 数	避難所	避難所外
（参考）第 3 次長野県地震想定時	62,070 人	16,740 人	8,370 人	8,370 人
R7.4.1 現在（県人口異動調査より）	57,325 人	15,480 人	<u>7,740 人</u>	7,740 人

(3) 避難者の構成

備蓄品等については、避難者の年齢（年代）、性別等により必要とする物が異なるため、本計画では、推計人口（R7.4.1）の年齢別男女別人口等を基に避難者構成を設定し、品目ごとの備蓄目標数量算出の基礎数値とする。

<避難者構成>

年齢区分	推計人口（人） （R7.4.1 現在）			構成比（％）			避難者数（人）		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
総数	27,619	29,706	57,325	48.2	51.8	100	3,731	4,009	7,740
0 歳	146	153	299	48.8	51.2	0.5	19	20	39
1～2 歳	392	345	737	53.2	46.8	1.3	54	46	101
10～50 歳	11,389	10,926	22,315	51.0	49.0	38.9	1,536	1,475	3,011
85 歳以上	1,324	2,754	4,078	32.5	67.5	7.1	179	371	550

(4) 防災備蓄の区分

ア 公的備蓄

避難所で必要となる物資や資機材等を購入、備蓄するもので、発災から概ね 12 時間後から 1 日分を目途に備蓄するもの。（長野県地震防災対策強化アクションプランでは長野県で 1 日分、市町村で 1 日分）

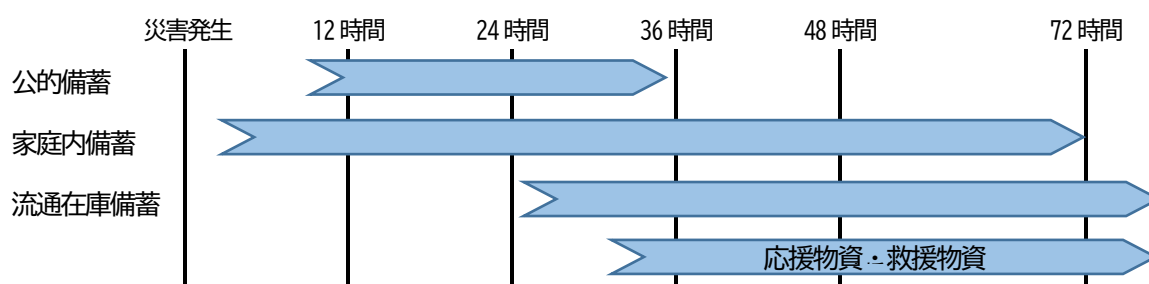
イ 家庭内備蓄

各家庭で家族が生き残るために必要な物資を確保するもので、発災直後から最低でも 3 日分、可能な限り 1 週間分程度は備蓄するもの。

ウ 流通在庫備蓄

事業所や団体と市があらかじめ災害時協定を締結し、災害時に必要な物資の調達を依頼し、発災から概ね 24 時間後以降を目途に提供するもの。

防災備蓄区分別の物資の確保イメージ



公的備蓄（市）

(1) 食料

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (食)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
サバイバルフーズ	3～84歳避難者×3食	21,150	2,460	▲397
アルファ化米			6,206	
レトルト食品（ご飯）			12,087	
アルファ化米（粥）	1～2歳+85歳以上避難者×3食	1,953	3,530	2,575 充足
レトルト食品（粥）			998	
液体ミルク	0歳避難者×8回／日×50% ※残り50%は家庭内備蓄で調達	156	456	300 充足
ｸﾘｰｽﾞﾄﾞﾗｲﾋﾞｽｹｯﾄ	—	—	768	—
ミルクビスケット	—	—	168	—
菓子類（ビスコ）	—	—	2,520	—
菓子類（ようかん）	—	—	1,700	—

(2) 飲料水

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (本)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
水（500ml PET）	避難者総数×4本	30,960	30,906	▲54

(3) 避難所開設備品

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (台ほか)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
折りたたみベッド	避難者総数×1台	7,740	2,124	▲5,160
段ボールベッド			456	
間仕切り（パーティション）	避難者総数×1張／2人	3,870	1,334	▲2,536
ファミリールーム	優先開設避難所15箇所×4張	60	69	9 充足
プライベートルーム	優先開設避難所15箇所×4張	60	64	4 充足
アルミマット	避難者総数×1枚 (パーティション付属品)	7,740	200	▲6,073
			1,467	
簡易トイレ	避難者総数×1基／50人	155	139	54 充足
マンホールトイレ			70	
トイレ用テント	避難者総数×1基／50人 (マンホールトイレ用)	155	104	19 充足
			70	

(4) 生活必需品・日用生活用品

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (台ほか)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
毛布(真空パック)	避難者総数×1枚	7,740	5,220	▲1,690
シュラフ			830	
ガババルブランケット(アルミ)	—	—	200	—
ブランケット(ワト)	—	—	960	—
生理用品	10～50歳女性避難者×1/4×4枚×1日	1,475	1,200	▲275
哺乳瓶(使い捨て)	0歳避難者×8回/日×50% ※残り50%は家庭内備蓄で調達	156	480	324 充足
紙おむつ(乳児小児用)	0～2歳避難者×8枚×1日×50% ※残り50%は家庭内備蓄で調達	560	2,044	1,484 充足
紙おむつ(大人用)	避難者総数の5%×4枚×1日×50%(0～2歳除く)※残り50%は家庭内備蓄等で調達	760	280	▲480
トイレットペーパー	避難者総数×10m/日×1日÷60m/巻	1,290	888	▲402
汚物処理袋(簡易トイレ)	3歳以上避難者×5回/日×1日	38,000	47,400	9,400 充足
この他、おしりふき等乳児関連用品、使い捨て食器類、ラップフィルム、燃油携行缶、スリッパ等を適宜備蓄				

(5) 避難所運営資機材

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (台ほか)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
ガス発電機	優先開設避難所15箇所×2台	30	29	▲1
カセットガス(発電機用)	優先開設避難所15箇所×24本(1日分)	360	1,350	990 充足
蓄電池	優先開設避難所15箇所×1台	15	22	7 充足
携帯電話充電器	優先開設避難所15箇所×1台	15	22	7 充足
エアストレッチャー	福祉避難所15箇所×1台	15	15	充足
この他、拡声器(ハンドメガホン)、懐中電灯、ラジオ、乾電池等を適宜備蓄				

(6) 感染症対策物品 他

品目	備蓄目標の算出方法	備蓄目標 (個ほか)	現備蓄数 (R7.9月現在)	過不足
不織布マスク	避難者総数×5枚	38,700	61,200	22,500 充足
手指消毒液	優先開設避難所15箇所×2個	30	30	充足
非接触式体温計	優先開設避難所15箇所×2個	30	30	充足
使い捨て手袋	—	—	10,000	—
フェイスシールド	—	—	1,000	—

家庭内備蓄

千曲市地域防災計画では、市民は、一般流通が十分機能しないと考えられる発災直後から最低でも3日分、可能な限り1週間分程度は、自らの備蓄で賄うことを原則としている。

各家庭では、自分と自分の家族が生き残るために、備蓄のポイントや例を参考に、家族の状態に合わせた物品を「わが家の防災セット」として備蓄を進める。

また、災害に備え、避難先で最低限必要なものを持てる分だけリュックサック等の非常持ち出し袋に入れ、いつでも持ち出せるように準備しておく。

(1) 食料品

<食料品備蓄のポイント>

- ア 長期間保存ができるもので、賞味期限前に計画的に使用し、同様のものを新たに買い足す方法（ローリングストック）ができるもの
- イ 常温で保管ができ、持ち運びが便利なもの
- ウ 調理が不要か簡単なもので、食器具等が付属しているものが望ましい
- エ 高齢者や乳幼児、アレルギーなど、各家庭の状況に応じたもの

<食料品の例>

食料	米、長期保存パック食品、粉類、乾麺、缶詰・瓶詰、レトルト食品、フリーズドライ食品、乾物類、インスタントみそ汁、乾パン、チョコレート、ビスケット
飲料	水（1人1日3ℓ）、スポーツ飲料、野菜ジュース
調味料	砂糖、塩、酢、しょうゆ、みそ
それぞれの状態に合わせたもの	粉ミルク、液体ミルク、離乳食、アレルギー除去食品
調理器具・食器	カセットコンロ・ガスボンベ、鍋等、使い捨て食器一式、ラップフィルム

(2) 生活関連用品

<生活関連用品の例>

貴重品	現金、印鑑、預金通帳、保険証
防災用品	携帯電話充電器・モバイルバッテリー、懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池、ヘルメット、ホイッスル、軍手、マッチ・ライター、ロープ、布ガムテープ、レジャーシート、毛布・寝袋・アルミシート、携帯用トイレ
日用品	タオル、ティッシュ、ウェットティッシュ、トイレトペーパー、ビニール袋、ドライシャンプー、歯ブラシ、歯磨き粉、上着・下着、スリッパ、レインコート、筆記用具、時計
医薬・衛生用品	持病薬、解熱薬・かぜ薬・胃腸薬、おくすり手帳、ばんそうこう・包帯・傷薬
それぞれの状態に合わせたもの	【乳児】哺乳瓶、紙おむつ・おしりふき、着替え、母子手帳 【女性】生理用品、防犯ブザー 【高齢者】介護用品、携帯用杖、口腔ケア用品

流通在庫備蓄

民間事業者とあらかじめ協定を締結し、災害時に必要な物資を市の要請に基づき必要量を調達する流通在庫備蓄を推進する。

現在、災害時の物資の調達に関する協定を以下のとおり締結しており、災害時に効果が発揮できるよう連絡体制の確認を行う。

協定名称	協定先	主な内容
災害時における応急生活物資供給等に関する協定	ながの農業協同組合	飲料水、食料、生活物資
災害時における応急生活物資供給等に関する協定	生活協同組合コープながの	飲料水、食料、生活物資
災害時における応急生活物資供給等に関する協定	(株)ベイシア	飲料水、食料、生活物資
災害時における物資供給に関する協定	(株)旭フーズ	食料、生活物資
災害時における飲料水提供に関する協定	北陸コカ・コーラボトリング(株)	飲料水
災害時における飲料水等の提供に関する協定	サントリービバレッジサービス(株)	飲料水、自動販売機内在庫
災害時における物資供給に関する協定	NPO 法人コメリ災害対策センター	飲料水、生活必需品、応急対策物資
災害時における物資供給に関する協定	(株)ナフコ	飲料水、生活必需品、応急対策物資
災害時における生活物資の供給協力に関する協定	(株)カインズ	生活必需品、応急対策物資
災害時における福祉用具等物資の供給に関する協定	(一社)日本福祉用具供給協会	生活必需品
災害時における物資の供給に関する協定	レンゴー(株)	避難所物資
震災時における緊急設備支援に関する協定	(株)セレスポ	避難所物資

備蓄方法と防災備蓄倉庫

(1) 備蓄方法

本市では、災害時により迅速かつ効果的に備蓄品を供給できるよう、市内 15 箇所の防災備蓄倉庫だけではなく、災害時に市が優先して開設する避難所に指定している 15 施設でも避難所開設時に最低限必要となる物品を備蓄するなど、分散備蓄を基本として備蓄を行う。

(2) 倉庫の配置と今後の方向性

ア 防災備蓄倉庫

市内の地域別に分散して配置し、災害応急対応物資や大型の備蓄品を保管する他、避難所運営で二次的に必要になる物資を保管する。

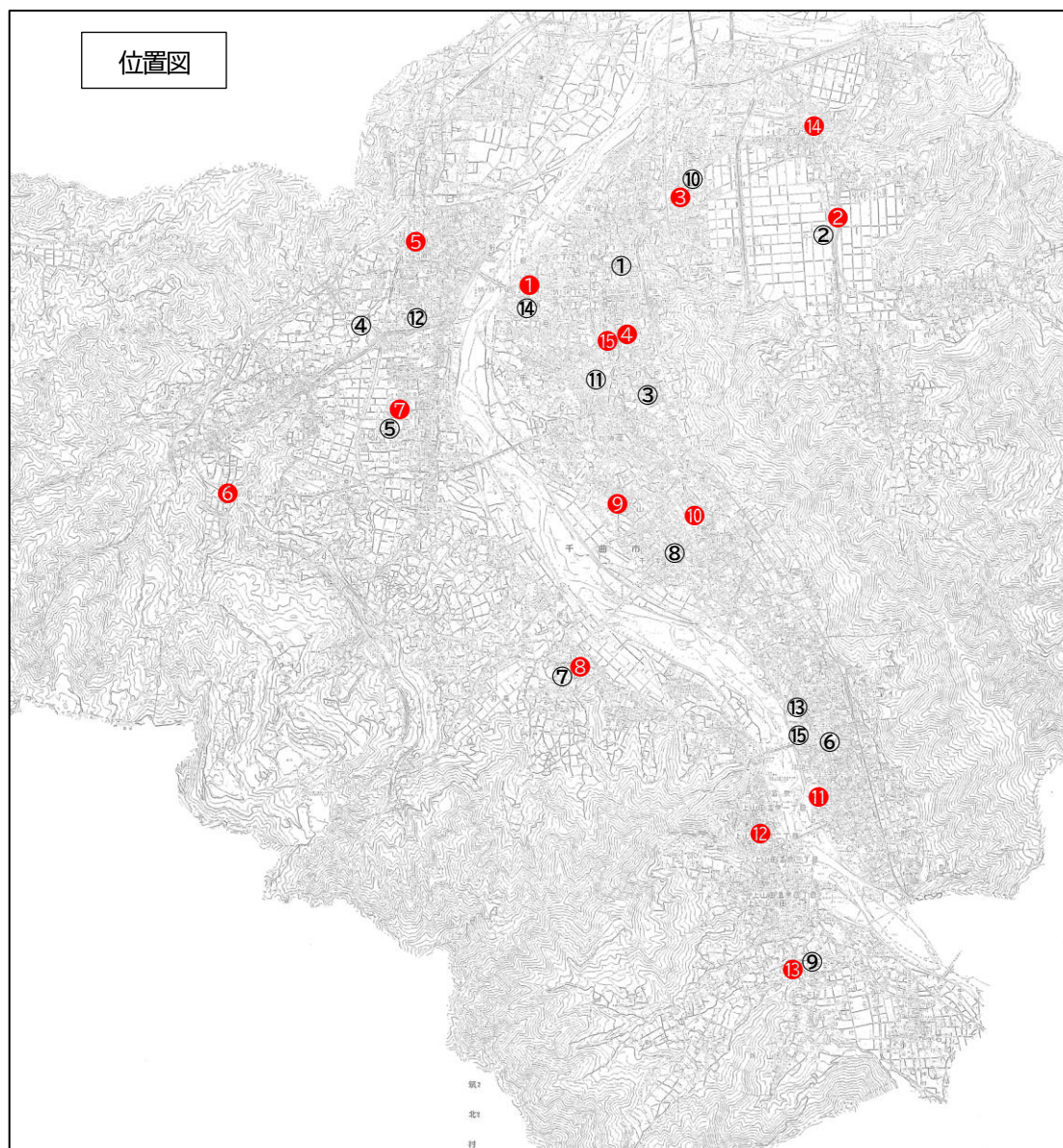
名称	所在地	面積
①杭瀬下防災備蓄倉庫	杭瀬下四丁目 50 番地	469.44 m ²
②生萱防災備蓄倉庫	大字生萱 120 番地	49.68 m ²
③屋代中学校防災備蓄倉庫	大字屋代 811 番地 2	33.40 m ²
④小島防災備蓄倉庫	大字小島 2746 番地 2	50.80 m ²
⑤稻荷山防災備蓄倉庫	大字稻荷山 2131 番地 4	49.68 m ²
⑥中原防災備蓄倉庫	大字八幡 391 番地	118.00 m ²
⑦八幡防災備蓄倉庫	大字八幡 3130 番地 1	50.80 m ²
⑧羽尾防災備蓄倉庫	大字羽尾 1871 番地 1	50.80 m ²
⑨小船山防災備蓄倉庫	大字小船山 167 番地 1	50.80 m ²
⑩内川防災備蓄倉庫	大字内川 1254 番地 2	50.80 m ²
⑪戸倉防災備蓄倉庫	大字戸倉 2233 番地 1	50.80 m ²
⑫上山田防災備蓄倉庫	上山田温泉二丁目 18 番地 19	32.40 m ²
⑬新山防災備蓄倉庫	大字上山田 698 番地 1	58.32 m ²
⑭雨宮防災備蓄倉庫	大字雨宮 763 番地 2	50.54 m ²
⑮桜堂防災備蓄倉庫	大字桜堂 570 番地 1	104.96 m ²

イ 避難所備蓄倉庫

災害時に市が優先して開設する避難所に指定する施設の空きスペースや敷地内に設置する備蓄倉庫において、避難所開設時に最低限必要となる物品を収容可能人数分を目標に保管する。

名称	収容可能人数	現備蓄品目・数量	備蓄場所
①屋代小学校	360	・毛布 200 枚	備蓄倉庫 2 箇所
②東小学校	450	・折りたたみベッド 100 個	備蓄倉庫、体育館器具庫
③埴生小学校	360	・段ボールベッド 10 個	備蓄倉庫、視聴覚室
④治田小学校	230	・間仕切り 50 張	備蓄倉庫
⑤八幡小学校	380	・ファミリールーム 4 張	備蓄倉庫、放送室、体育館倉庫
⑥戸倉小学校	250	・プライベートルーム 2 張	備蓄倉庫
⑦更級小学校	370	・ガス発電機 1 台	備蓄倉庫
⑧五加小学校	300	・簡易トイレ 2 基	備蓄倉庫
⑨上山田小学校	370	・汚物処理袋 300 袋	備蓄倉庫 2 箇所
⑩屋代中学校	470	・飲料水 240 本	備蓄倉庫
⑪埴生中学校	420	・アルファ化米 100 食	備蓄倉庫、進路指導室
		・レトルト食品(ご飯) 50 食	備蓄倉庫

⑫更埴西中学校	373	・レトルト食品(粥) 50食 ほか	備蓄倉庫、2階倉庫
⑬戸倉上山田中学校	523		備蓄倉庫、体育館器具庫
⑭ことぶきアリーナ千曲	959		市庁舎付属棟
⑮ふれあい福祉センター	100		3階資機材倉庫、4階倉庫、旧議場



(3) 備蓄倉庫の新設等整備の方向性

防災備蓄倉庫及び避難所備蓄倉庫は、いずれも飽和状態になりつつあるが、防災備蓄倉庫に保管されている物品については、整理が必要なものも多く含まれているため、今後、調達・備蓄とのバランスを取りながら整理を進めたいと、倉庫の新設等を検討する。また、既存の公共施設や市有物件を備蓄場所として有効活用することも視野に、検討を進める。

避難所備蓄倉庫については、各施設の敷地内へ倉庫増設を検討するとともに、空きスペース活用などを施設管理者と協議し、備蓄場所の確保を図る。